

(1)–⑥ 腎臓・高血圧・透析専門医コース

1 コースディレクター、副コースディレクター紹介

コースディレクター：風間順一郎



(略歴)

1987年 新潟大学医学部医学科卒業
 1989年 新潟大学医学部内科学第二教室（現腎・膠原病内科）入局
 1995年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士）
 1996年 豪州メルボルン大学聖ヴィンセント医学研究所研究員
 2002年 新潟大学医学部附属病院集中治療部講師
 2009年 新潟大学医歯学総合病院高次救命災害治療センター准教授
 2010年 新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部准教授
 2016年 福島県立医科大学腎臓高血圧内科教授

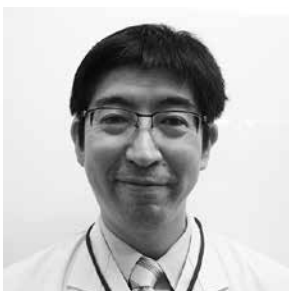
学会認定医、専門医

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本骨粗鬆症学会認定医

研究テーマ

尿毒症の病態解析、新規血液浄化療法の開発、骨ミネラル代謝

コースディレクター：寺脇博之



(略歴)

1991年 岐阜大学医学部卒業
 2005年 東北大学大学院医学系研究科留学
 2011年 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科講師
 2012年 福島県立医科大学人工透析センター特命准教授
 2015年 福島県立医科大学人工透析センター部長准教授

学会認定医、専門医

総合内科専門医、腎臓学会専門医・指導医、透析学会専門医・指導医、高血圧学会専門医

2 プログラムの目的と特徴

すでに2年間の卒後臨床研修を修了したものが、内科の中でも特に腎臓病や高血圧に関する臨床的ならびに基礎的な専門知識および技能を習得し、優れた腎臓病専門医になることを目的とする。腎臓内科の扱う臨床的領域は、体液管理、組織病理組織診断から腎不全の代替療法まで広範囲であり、膠原病を中心とする臨床免疫から高血圧までの多彩な学際分野を包含している。当科では、これらの腎臓内科の全てを一人で管理できることを研修目標としている。

知識と論理に基づいた専門性の高い医療の実践を徹底し、臨床研究や学会発表・論文執筆にも積極的に行なう。

なお、本コースと糖尿病・内分泌・代謝専門医コース（糖尿病専門医サブコース、内分泌代謝専門医サブコース）は、同一の病棟単位（旧第三内科）にて研修が実施されるので、同時に研修可能である。

3 取得できる専門医名

日本腎臓学会認定腎臓専門医

日本透析医学会認定透析専門医

4 専門医取得の要件

- (1) 本邦の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること
- (2) 会員歴が継続して5年以上であること
- (3) (社)日本内科学会認定医取得後3年以上であること。
- (4) 日本腎臓学会指定研修施設において、研修を3年以上行っていること

5 プログラムの概要

到達目標

研修1年目

認定内科医 (腎臓部門)	
知識	体液・電解質・酸・塩基の調節機構を理解する。 各種腎炎、糖尿病性腎症、他疾患に伴う腎症の臨床像を理解し説明できる。 各種糸球体腎炎の臨床的特徴、検査所見、組織像を説明することができる。 高血圧の成因（二次性高血圧の鑑別）、高血圧合併症の診断、高血圧治療の原則を理解し、説明できる。
実技	各種の体液/電解質/酸・塩基平衡異常に対し適切な検査、診断を行ない、治療計画を立てることができる。 経皮的腎生検を超音波下で安全に行える。
学術・研究	研修期間に経験した症例を英文症例報告にまとめ投稿する。 臨床症例報告を学会発表する。

研修2年目

腎臓・高血圧・透析専門医コース	腎臓専門医・透析専門医に必要な基礎的知識、技術の習得を目的とする。同時に、症例のプレゼンテーションの能力、臨床研究の基礎的概念を修得する。
知識	臨床像、検査値から特定の腎炎、腎症が推定できる 腎症をおこしやすい他疾患を列記できる。 他疾患に伴う腎症の臨床的特徴、検査所見、組織像を説明することができる 腎生検の適応を判断できる

	高血圧の病因・病態を把握（ABPMによる日内変動、食塩感受性、インスリン抵抗性の評価）ができる。
実技	腎生検の組織診断を下せる。 組織診断に基づいた適切な治療方針を立てることができる。 2次性高血圧の鑑別手技（腎血管の画像診断、下垂体副腎系内分泌検査、レノグラムなど）、食塩感受性評価法、インスリン抵抗性評価法）を実践・評価できる。
学術・研究	臨床的・基礎的研究の主題を決定し研究活動を開始する。 前年度に経験した症例を英文症例報告にまとめ投稿する。 臨床症例報告を学会発表する。

研修3年目

腎臓・高血圧・透析専門医コース	腎臓専門医・透析専門医として自立可能な知識、技術の習得を目的とする。同時に、症例のプレゼンテーション、臨床研究に興味に応じて実践する。
知識	腎疾患治療の原則を理解し、個々の患者の適応が決定できる。 急性、慢性腎不全の病態を理解し、急性腎不全の病態を鑑別し、病態に基づいた回復治療ができ、透析導入の判断ができる。 高血圧合併症である動脈硬化の機能的、画像的評価（頸動脈超音波、PWV、ABI、眼底検査）を評価できる。
実技	テンコフカテ挿入、シャント作成の基本的な手技を泌尿器科に協力して行える。血液透析・腹膜透析を指導医の監視下で実践できる。 動脈硬化の機能的、画像的評価（頸動脈超音波、PWV、ABI、眼底検査）を実践できる。
学術・研究	研究データをまとめ英文論文を作成する。 研究データを学会で発表する（日本腎臓学会、米国腎臓学会） 前年度に経験した症例を英文症例報告にまとめ投稿する。 臨床症例報告を学会発表する。

研修4年目

腎臓・高血圧・透析専門医コース	腎臓専門医・透析専門医として自立すると同時に、他科のコンサルテーションや学生・下級生の教育可能な能力を育成する。 症例のプレゼンテーション、臨床研究に興味に応じて続行する。
知識	腹膜透析と血液透析療法のそれぞれの長所と短所を理解し、適切な時期に導入し、維持管理する能力を習得する。

	適切な時期に導入し、維持管理する能力を習得する。 ・高血圧緊急症、脳卒中・心筋梗塞などの重篤な合併症への適切な対応・治療法を理解する。
実技	各種腎疾患の外来管理を適切に行なうことができる。 ・腹膜透析、血液透析の管理が行える。・ 高血圧緊急症、急性腎不全、敗血症・SIRS、薬物中毒などの腎 ・高血圧関連の救急医療が実践できる。・
学術・研究	論文を投稿し発表する。 研究データを学会で発表する（日本腎臓学会、米国腎臓学会） 前年度に経験した症例を英文症例報告にまとめ投稿する。 臨床症例報告を学会発表する。

6 年間症例数等

平成22年度

入院延患者数 6,680名

外来延患者数 12,200名

腎生検数 90例

人工腎臓使用件数 660件

7 研修施設・研修責任者等一覧（医大及び協力病院）

施設名	所在地	診療科	指導責任者	専門医数
福島労災病院	いわき市内郷綴町沼尻3	腎臓・ 高血圧内科	渡辺毅	8
太田西ノ内病院	福島県郡山市西ノ内2-5-20	腎臓内科	佐藤衛	3
大原医療センター	福島県福島市鎌田字中江33	内科	亘理裕昭	2
公立藤田総合病院	福島県伊達郡国見町大字 塚野目字三本木14	腎臓内科	佐藤啓二	2
JA福島厚生連 坂下厚生総合病院	福島県河沼郡会津坂下町 字逆水50	内科	栗城実	1

8 専門医取得実績（過去5年間）

腎臓専門医：15名 透析専門医：3名

9 評価方法

臨床的能力とともに、研修医や学生、看護師やその他のスタッフに対する対応・指導についても評価対象とする指導医、他のスタッフによる他己評価と自己評価、及びコースコーディネーター、副コーディネーターによる総合評価を行う。

評価基準は、日本腎臓学会研修カリキュラム、日本透析医学会研修カリキュラムの各項目の基準に準拠する。